

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第3回 所沢市環境審議会
開 催 日 時	令和5年11月17日(金) 14:00~15:00
開 催 場 所	市役所高層棟7階 研修室
出席者の氏名	天野正博、柴田晋吾、鈴木由紀子、秋元智子、本澤智巳、川原博満、横内ゆり、坂根裕子、足立圭子
欠席者の氏名	倉片順司、大庭祥誠、戸邊和幸、羽田野崇、石川桃子、神谷葵
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 会議の運営についてご説明</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) パブリックコメントの結果について</p> <p>(2) その他</p> <p>4 閉 会</p>
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料1 所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)改定版(素案)に対するパブリックコメントの結果について</li> <li>・ 資料2 所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)改定版(素案)</li> <li>・ 資料3 (仮称)所沢市脱炭素ロードマップ(素案)</li> <li>・ 資料4 「所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計画)」の改定について(答申)(案)</li> </ul>
担 当 部 課 名	<p>環境クリーン部 部 長 安藤 善雄</p> <p>次 長 稲子谷 昂子</p> <p>次 長 市川 勝也</p> <p>マチごとエコタウン推進課 課 長 齋藤 伸宏</p> <p>主 幹 三浦 直子</p> <p>主 査 大舘 徹</p> <p>主 任 濱本 恵代</p> <p>みどり自然課 主 査 児玉 治彦</p> <p>資源循環推進課 課 長 山屋 貴裕</p> <p>環境クリーン部マチごとエコタウン推進課 電話 04-2998-9133</p>

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	開会・あいさつ
会長	あいさつ
事務局	出席者の確認、審議会規定より過半数の出席により会議の成立を確認。
事務局	傍聴者 3 名が入室。
事務局	議題（1）パブリックコメントの結果について資料 1、資料 2、資料 3、資料 4 に基づき事務局より説明。
会長	<p>〈質疑応答〉</p> <p>剪定後の枝葉や紙おむつなどの話があったが、これらはごみの分別収集があって初めて実施可能になる。パブリックコメントのリサイクル、再利用してほしいという意見を、どのように対処できるかは、ごみの分別収集ができるか次第となる。分別収集を支援する形で資源化できていくとこのような意見が反映されると思う。</p>
委員	<p>今の意見に関連し、剪定ごみや紙おむつの資源化について新たな技術の研究を進め検討するとあるが、この書き方だとすぐに進めるように感じない。例えば剪定ごみならばバイオネストなど、試行的にでも普及させる取り組みを支援する等、目に見える取り組みを始めたほうがいいのではないか。研究を進めるだけではいつまで経っても進まず、脱炭素も進まないのではないかという印象になる。</p>
会長	<p>近年剪定枝は注目されている。温暖化を防ぐには有機農業を増やす必要がある。日本の場合 100 万ヘクタール有機農業にしなくてはいけない。有機の材料として一番使いやすいのは、落ち葉や落枝だが、それを集めるのが大きな課題になる。農家から協力があると国としてはやりやすい。世界の 0.4% の農地が有機農業になれば排出量がかなりカバーできる試算もある。農地からの温室効果ガスは多く、化成肥料の中にメタンガス、亜酸化窒素などが含まれている。これらの温室効果は、CO<sub>2</sub> に比べて 12 倍、100 倍になる。有機農業で落葉、落枝を使うのは非常に大事になる。</p>

<p>委員</p>	<p>剪定枝は学校、街路樹で一年中出てくる。剪定枝や生ごみなどをバイオ発電の原料として活用することを私はこれまで具体的に提案してきたが、検討するの返事のみで5年ほど経っている。西部クリーンセンターの用地が空いていると思うが、地域特有のバイオ発電は国も進めていて、それがうまくいくと学校の剪定枝の収集も楽になる。生ごみはどれだけ分別ができるかが問題になると思うが、街路樹も、家庭から出るものも、やらないと間に合わない。</p> <p>もう1点、ナラ枯れについて言及したい。本体はパルプになるが、枝葉については焼却している。これは、焼却せず炭に（炭化）すれば、燃やさない限りCO<sub>2</sub>は出ない。土壌改善もできるし、川に入れば河川の循環ができる。私たちは、実際にしているが、この頃は炭焼きができない。かつては炭焼きをやり、炭を粉にする機械も持っている。木酢液が取れば蒸留して農薬にもなる。その辺も検討してもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>p. 58 の⑤の文言が変わったという点で、その中の「世代間負担の公平性に留意し」の意味について教えていただきたい。</p> <p>また、剪定枝や紙おむつ等いろいろ廃棄物は混ざっており、分別は難しいということは私も認識している。ただ、廃棄物の処理費用は税金なので、例えば今まで廃棄物として処理していた時のコスト及びCO<sub>2</sub>排出量、それとリサイクルした場合のコスト及びCO<sub>2</sub>の削減量のデータをとり、どうしたらコストが安くなり、CO<sub>2</sub>を削減できるのかという視点で導入を考えてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>特に所沢市では三富という世界遺産になった素晴らしい循環型農業があるので、これは所沢市をアピールするのにとてもいい。他自治体の事例を挙げると長野県軽井沢町は貯木場があって、そこに剪定枝や、伐採した枝等を持ってきて置くところがあり、誰でも自由に持っていける。そこは薪ストーブが多くみんなが使うが、所沢市でも何か工夫の余地がないかと考える。バイオネストはかなり普及しているのでそういった取り組みができないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>剪定枝は、家庭より事業者のほうが出る量が100倍くらい多い。現在はパッカー車でクリーンセンターなどに運び、全て焼却している。西部クリーンセンターなどでも用地がないわけではないので、実施を考えてほしい。</p>

<p>会長</p>	<p>バイオマスを燃やしていると 2030 年度以降脱炭素は実現できない。脱炭素というのは、CO<sub>2</sub>を吸収したものと、燃やして排出したもので、ネットでゼロにしようという考えである。全体で考えた場合、バイオマスを発電以外に使うと非常にまずい。もう一つは、肥料として活用することが考えられるが、三富がありながらバイオマスを焼却すると、所沢市にとっては非常にマイナスのイメージになる。三富については、多くの研究者が様々な研究成果を持っているので、それらをなぜ使わずに燃やすのかとなる。他の市町村以上に所沢市はそこを考えた方がいい。バイオマスを燃やして出してしまった CO<sub>2</sub>を、唯一吸収するのは森林や植物である。海洋と陸域で吸収能力があるが、それをどう生かすかが脱炭素を考える上で大事である。その中で三富を擁する所沢はどうしていくか。この近くでは秩父にバイオマス発電がある。先行地域でも結構あるので、そういったものを参考にしてほしい。それに、CO<sub>2</sub>は吸収しても、あるいは排出削減しても今は無料であるが、経済市場で正規に CO<sub>2</sub>の売買ができるようになってきている。自治体には取引の権利がないと聞いたこともあるが、自治体が先行して事例を作っていないといつまで経っても進まないと思うので検討してほしい。</p> <p>また、パブリックコメントの書き方が、「検討する」、「研究する」で終わっていたので、それをどうするかについても考えてほしい。一歩進んだ形を打ち出していただけるといい。気候変動については市民の協力は不可欠である。インセンティブを与えるためにもそういう姿勢を見せてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>p. 58 の⑤にある「世代間の負担の公平性」については、前回まで「ごみ処理経費の負担公平性」として、いわゆる受益者負担、現在生活してる人たちの経費の公平感だけを書いていた。この地球温暖化の問題は、将来の子どもたちにツケを回すということがある。今回この書き方にしたのは、ごみを極力減量化していく、燃やす量を減らすことで、将来の子どもたちや、未来の人達に対しても公平であるべきだという意味合いを込めてこの言葉を使った。</p> <p>また、研究や検討という言葉だが、まずやらないというイメージがついてしまうというご指摘と受け取った。すぐ実行するような気がしない書き方だという指摘であったが、目に見える取り組みへの書き方については、持ち帰り検討し、お示ししたい。</p>

<p>会長</p>	<p>ごみを多く出している人は多くお金を出しており、少ない人は払わないということも確かにあるが、それ以上に考えなければならないのは、私たちが大量生産、大量消費していることによる問題が将来世代にも及ぶことであり、それを再利用していこうという話だと思う。これが長期計画、ロードマップなどに書き込んであると、これから政策を打ち出しやすくなると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>p. 58 の「世代間の負担の公平性に留意する」は、全体的に言えることだと思う。環境負荷をなくしていくのは、将来世代のために負の遺産としないためであり、あえてここに入れる必要があるのか。表現的にもわかりにくい。もし入れるのであれば、「将来の子どもたちに負荷を残さないため」などとした方がいいのではないかと。私は、「世代間の負担の公平性」は年寄りから若い人までの世代間の負担公平性だと勘違いしたので、表現を工夫してほしい。</p>
<p>会長</p>	<p>この計画の中には将来の子どもたちを考えた文章がたくさんあったと思うので、表現については改めて検討してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>以前別の機会に紙おむつのリサイクルを進められないか聞いたところ、所沢市近隣に紙おむつのリサイクル工場がないと回答された。今は「紙おむつ」と入っているということは、何か実現の目途が立っているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>紙おむつと剪定枝、生ごみの減量については、市としては是が非でもやりたいことである。新たな技術研究を進めるという表現にも関わってくるが、紙おむつの資源化については、やっと社会実装ベースで技術的にできてきた。紙おむつはパルプと吸収ポリマーが主原料となるが、マテリアルリサイクルが今実証実験ベースとなっている。例えば、東京都が音頭をとり、TOPPAN 株式会社と町田市と八王子市が協力して実証実験をしているが、なかなか社会実装ベースの技術が確立していないという説明を当時したと思う。紙おむつは、厚生労働省でも持ち帰らせないで公立保育園で処分することを推奨している。分別された状態であればあとは回収だけの部分もあるので、今後何かできないか考えている。剪定枝については、埼玉県内でも実施しているところもある。県外では例えば町田市は市で施設をもっており、剪定枝を市の施設で集めて粉碎し、堆肥化している。所沢市でも何かできないかという検討はしている。生ごみは</p>

	<p>分別をどうするかが一番難しい。家庭で分別してもどのように保管するか、においの問題もあり、昔のように街角のごみ箱に入れておけばいい時代ではないので、課題として認識している。機械選別し、発酵させバイオガスで発電させる技術も出てきているので、技術的な部分、コストの部分など検討することも非常にたくさんあるが、進めていきたいと考えている。</p> <p>委員 吾妻地区は東京都との境にある。東村山市のごみ処理は有料なため、東村山市民が吾妻地区にごみを持ってくることが、悩みの種になっている。吾妻地区は、東京都との県境に八国山など緑が豊かなところと市街地のところの両方があり、これまで地域の人の悩みを聞いてきた。私は10年ほど前からごみに対して力を入れてきた。所沢市民はごみが無料ということに対して、ありがたみを感じてない。いろいろ書いても市民自身は、ごみは無料だから何でも捨てていいという認識でいる。分別してください、水を切ってくださいと当たり前のことを言ってもやらない。それなら環境税を入れるとか、市民に対するペナルティを設けないと、きれいごとばかり書いても意味がないし、市民の協力がなくてできない。34万の人口、15万所帯から出るごみは大変な量になる。東部クリーンセンター、西部クリーンセンターがあるが、処理する場所はすでに弱っている。取り替えなくてはいけない状態で、何億もお金がかかってくる。市民はごみが無料だから工夫して出さず、焼却炉自体も傷んでいき悪循環になっている。私は、所沢市でごみ減量会議等取り組んできたが、市民は甘えている。認識が甘い。ごみや食品ロスに対して、市民一人一人が自覚を持たないといけない。私たちは一軒ずつまわってごみの分別をお願いしている。同時にパトロールし、県境なので東村山市から持ってこられるごみを東村山市に届けたこともある。私が言いたいのは、ごみの処理費は年間これだけかかり、この処理費は自分たちの税金だということを所沢市民が認識できるようにし、ごみを少なくする、工夫する、市民がすぐ実践できることを明記してほしい。</p> <p>会長 統計データ等、廃棄物の評価などから、これが温暖化につながっているということを入れていただければと思う。</p> <p>委員 市民にパブリックコメントの結果として返すのであれば、具体的な取り組みを書いてほしいというご意見もあったので、実際に修文</p>
--	---

	<p>を検討する場合は、具体的に文章を直す場所がわかるように書いていただいた方がいいと思う。また、⑨の紙おむつの資源化の施策は、他のリサイクルの取り組み施策と比べて、この⑨だけが技術があればやりますという表現になっているので、ある程度わかりやすく表記した方がいいのではないかと思います。</p> <p>質問だが、意見の中で脱炭素先行地域についての提案があり、市の考え方は拝見しそのとおりでとは思うが、考え方として市では脱炭素先行地域の取り組みは検討していないのか。この回答文ではそう読めてしまう。</p>
事務局	<p>脱炭素先行地域の応募の考え方については、国が脱炭素ドミノとして100程度全国で進める地域を選定するという動きは当然承知している。現時点で、具体的にこの場所、このプラン、この地域で応募するところがない状態だが、所沢市としても適地がないか検討している。</p>
会長	<p>回答には「全国に波及されることができるよう先進的な施策に取り組んでまいりたい」とあり、この先進的な施策に取り組むことで所沢が先行地域として認定される資格を有していれば、結果として認定されるという、その可能性を求めているという書き方にした方が、コメントした人にとってはよいのではないかと。</p>
委員	<p>先行地域もずいぶん決まってきたので、もし申請するならば早めが良いと思うが、先行地域でなくても環境省の重点対策加速化事業等あるので、そういうものにもチャレンジするという表現でも良いのではないかと。重点対策加速化事業は埼玉県でも4市ほど決まっているので、所沢市でも是非チャレンジしても良いのではないかと。脱炭素については中小企業や市民の取り組みを進める等支援策はあるので、そのようなものを活用してはどうか。</p>
委員	<p>全体的な意見として、国のレベルで脱炭素の目標があるのでそれに合うようにするという受け身の姿勢ではだめだと思う。地域から脱炭素を進め、「今のやり方ではだめだ、これをしなくてはだめだ」と逆に国に言うくらいの、迫力のあるトーンにならないといけないのではないかと。市民が甘えているという意見もあったが、市民ができることは限界がある。地域から発信していくような迫力で施策を考えていく必要がある。国の計画に合わせてやるのでは解決策につ</p>

	<p>ながらない。</p> <p>会長        厳しい意見もあるが、市民が動きやすい所については考えられたほうがいい。パブリックコメントは市民が出してよかったと感じてもらうことが大切である。全市民がパブリックコメントを出せたのに、結果として意見がこれだけ少ないことを考えると、意見を出してもあまり効果がないと思われている可能性もある。例えば、再生可能エネルギーの追加導入についても、市の予算に関わることは書いてはいけないのかと思ってしまう。コメントした人に対してどう返すかということも考えていただきたい。他のところも何か書き換えるなど知恵を絞っていただき、次はもう一桁上の数のコメントがくるようにしてほしい。市民が直接やることは少ないが、市民が声を上げることはできる。気候市民会議はそのひとつの良い機会であったと思うので、市民と担当者との意見交換等に活用できるようにしてほしい。</p> <p>最後、資料4の答申案についても目を通していただき、何かあればご意見お願いしたい。では委員の皆様からのご意見が出るまでの間、私から先に意見を述べたい。「マチごとゼロカーボン市民会議における市民の意見を尊重するなど、幅広く市民意見の聴取に努めてまいりました」とある。幅広くという表現にパブリックコメントも含まれているため、「パブリックコメント」という語句を入れていただき、いつも我々がパブリックコメントを期待しているという意向を示してほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>パブリックコメントはもう少し幅広い人の意見も聞くべきだと思う。電子メールやホームページではいけない。ごみは女性が出すので、もっと年齢層を広げたり、幅広く聞くべきである。地域によってごみに対する意見は違う。15人しか出てこない、市民がこれをどこまで評価しているのか疑問に感じる。情けない。所沢市民は何を考えているのか。逆に、これまでの取り組みが無駄な努力だったと感じる。この計画を税金で作っている意味があるのか、疑問に感じた。</p>
<p>事務局</p>	<p>これからもパブリックコメントは多くの方から意見をいただきたいと考えているので、答申については将来への期待もこめて「パブリックコメント」という語句を追記していきたい。</p>

<p>会長</p>	<p>今後、意見を出せる機会があるということを市民に知ってもらうことも目的の一つとして、直してもらいたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>議題（２）その他          今後のスケジュール及び環境審議会条例の一部改正に伴うパブリックコメントの実施について、事務局より説明。</p> <p>閉 会</p>